

## 巻頭言

# 新年のご挨拶

辻 靖 三



新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のお祝いを申し上げます。

本年2009年は(社)日本建設機械化協会にとって、昭和24年(1949)の創設以来、60年目にあたります。設立当初の日本の状況は、戦災で国土は荒廃し外地から帰還した人々を含めいかに生活していくかという危機であり、そのためには国土を復興して、食糧、エネルギーを確保し、水害等から安全な生活の場を早く整備することが最大の課題でありました。その状況で国土建設は重大な使命であり、その展開に当っては建設の主役に機械力を投入することでした。まさに建設の機械化であり、当協会の発足は時代に適うものであり、機械製作者、それを駆使する工事施工者が一体となり、公共事業者側との連携プレーで推進するという重要な役割を果たしてきました。

爾来、高度経済成長期、オイルショック期、バブル経済とその破綻期等を経て今日に至ってきています。しかし特に昨年はまさに世界、国内において政治、金融経済、エネルギー・食糧・鉱物資源等についての重大事態が勃発し大波乱の年でした。年明けても危機状態は継続しており、今年の展開も有識者でも予測困難な混迷状態となっています。当協会創設時と今日の状況は全く異なるものであり、60年間の変り様はその間生活体験してきた世代にとっては別世界の感です。

しかし、国民の活動と生活の場である国土作りはどんな時代でも国民が将来生きていく国家の基盤となる

資産形成であり、時代で課題の変遷はあるもののそれに適った投資は着実に積み重ねなければ生き残れません。建設事業分野においては、事業の効率性・省コスト・環境保全がより一層求められ、それを実現する設計・工事・維持管理ではそのプロセス全体での効率化・環境保全・安全性向上が普遍的に取り組んでいかなければなりません。そのために重要なのは新技術・新材料の導入、人材育成、関連する業界の経営環境の安定であります。これらは国内のみならず、海外で展開してリターンを国内に還流できる産業としても重要な役割があります。

当協会が果たすべき役割は現在でも基本は不変であり、建設機械とそれを主役とした建設工事での省エネルギー、省環境負荷、省コスト、安全性向上、海外展開についての新たな課題に対応し調査研究、規格化、普及、人材養成等の活動を進めます。新技術・新工法・新材料の導入には先導的な役割が大事であり、特に情報通信技術との一体化技術は重要テーマの一つであります。建設機械施工分野での学術団体、国内外でのJIS・ISO規格の審議団体であり、自ら調査・研究・検定できる研究所を有する法人として、還暦を迎えた新年に当り、認識を新たに活動していきます。協会の活動、運営に会員皆様のご協力をお願いいたしますとともに、会員各位の業務活動の安定、発展を祈念申し上げます。

—つじ せいぞう (社)日本建設機械化協会 会長—